

---

十日町市教育委員会 文化財課 年報 8

---

平成15年度 (2003.4~2004.3)



十日町市教育委員会 文化財課

# 文化財課年報 8

## 目 次

|                           |          |
|---------------------------|----------|
| I. 運 営                    |          |
| 1. 文化財保護行政この1年            | 1        |
| 2. 文化財保護審議会の経過            | 2        |
| 3. 予算と決算                  | 3        |
| II. 指定文化財                 |          |
| 1. 新指定の文化財                | 4        |
| 2. 指定文化財の保存と管理            | 6        |
| III. 埋蔵文化財                |          |
| 1. 発掘調査                   | 7        |
| 2. 発掘調査報告書刊行事業            | 9        |
| IV. 調査・研究                 |          |
| 1. 研究報告 当間高原リゾート遺跡群の研究(1) | 石原正敏……10 |
| 資料活用の試みからー資料のデジタル化に取り組んでー | 竹内俊道……13 |
| 2. 資料紹介 野首遺跡採集の抉入尖頭器      | 菅沼 亘……14 |
| V. その他                    |          |
| 1. 文化財関連博物館事業             | 16       |
| 2. 文化財資料の保存と活用            | 18       |
| 3. 文化財資料の貸出               | 20       |
| 資 料                       |          |
| 附：十日町の指定文化財一覧             | 22       |
| 編集ノートー職員名簿                | 24       |

## 例 言

1. 本書は、十日町市教育委員会文化財課の平成15年度を中心とした活動記録である。
2. 本書の構成は、文化財課の業務を大まかにⅠ.運営、Ⅱ.指定文化財、Ⅲ.埋蔵文化財、Ⅳ.調査・研究、Ⅴ.その他の5つに分類し、活動を報告する形とした。
3. 本書の原稿は文化財課の職員がそれぞれ担当を決めて執筆し、末尾に担当者の名前を記した。なお、Ⅳ.調査・研究については紀要的性格に鑑みて記名原稿とした。
4. 提出された原稿は、できるかぎり原文を尊重した。ただし、内容・表記等については、執筆者の了解を得て編集者が修正したものもある。
5. 本書の編集は竹内俊道が担当した。

# Ⅰ. 運 営

## 1.文化財保護行政この1年

まず、平成15年度の文化財課の活動を概観する。  
《文化財保護審議会》

委員の任期は平成16年6月11日となっているが、市町村合併の関連から、合併後の新委員が決定されるまで延長願うことを全委員に了解いただいた。会議は年4回開催された。

《文化財指定》

教育委員会は11月13日付で、14年度末までに地権者の同意を得た十日町市指定史跡「笹山遺跡」の追加指定について文化財保護審議会に諮問した。候補地は平成4年12月3日付で史跡指定された区域に隣接し、状況から明らかに笹山遺跡の範囲に含まれると推定される。文化財保護審議会は、11月25日に審議会を開き、追加指定すべきである旨の答申をした。これを受けて、11月27日の教育委員会で市文化財として追加指定することを決定し、同日告示された。

《指定文化財の管理等》

市指定文化財である「鉢の石仏」にある「照利庵」に掛けられていた「掛軸」が盗難にあったため、早速管理者が十日町警察署に盗難届けを提出した。掛軸の作者や年代、価値等是不明である。

《発掘・確認・試掘調査》

今年度は林道中魚沼丘陵線開削に伴う名ヶ山地区、住宅団地造成事業による小泉地区、土地改良事業に伴う江道A遺跡、県営基盤整備事業新水四箇村地区、県営農地環境整備事業枯木又地区等と国県指定をめざす笹山遺跡の範囲確認調査を行なった。

詳細は『平成15年度十日町市内遺跡試掘・確認調査概要報告書』を併せて参照いただきたい。

《出土遺物の整理》

県緊急地域雇用創出特別基金事業で実施した。

(社)十日町地域シルバー人材センターに委託し、6か月間410人が土器の水洗いと注記作業に従事し、概ね240箱が整理された。今後発掘調査報告書にまとめるための重要な作業である。

《発掘調査報告書の作成》

年次計画で計画的に進めている発掘調査報告書事業は、14年度に馬場上遺跡の調査報告書が刊行され、続いて15年度～16年度の2か年で「伊達八幡館跡」の報告書刊行を目指している。

《課題と展望》

14年9月に「国宝館・火焰の都整備事業基本計画書」が発表された。同事業は、13年度～14年度の2年間は市長部局において推進が図られてきたが、15年度から文化財課に事務が移管された。

笹山遺跡の保存と活用問題は文化財担当課として重要な課題であり、庁内のプロジェクトとの連携を密にしながら今後対応していかなければならない。しかし、計画の具体化のためには、長期発展計画や新市建設計画への登載のほか、市民や地元中条地区民の意向、財源等、幾多の問題や懸案がある。遺跡の範囲確認調査は、今年度は史跡指定地の西側を中心に12本のトレンチを設定し、12月中旬に終了した。来年度も引き続き内容確認調査を実施し、県史跡・国史跡への格上げに向けて努力したい。

今年度は花粉分析調査も実施した。これは専門業者への委託事業であり、地中深く埋没する植物の花粉を採取・分析することにより、笹山ムラの植生を明らかにするものである。

国宝・笹山遺跡出土品の管理では、保存修理の継続がある。文化庁の指導により、比較的残存率の高い11点の深鉢形土器について、14年度から4年間の予定で解体修理を行なっているが、昨年度の2個体に続き15年度には3個体の修理を実施した。

合併任意協議会では平成16年度末の期限内合併を見すえ、現在の5市町村で指定している文化財は、全て新市の文化財とし、新市になってから新たな指定を含めて検討するとしている。今後、膨大な数の文化財の調査・検討が必要になると予想される。

その他、市街地化の進展によって文化財が壊される危険性の高い、信濃川河岸段丘端に分布する中世城館跡群の保存についても、なかなか実態の調査に向かえず将来展望を見いだせないでいる。

課題とする事項は多いが、担当課として市の将来を見据えた文化財保護行政を着実に進めたい。

最後に、1年間各種事業の実施について、ご指導・ご協力いただいた関係者各位に心から感謝申し上げる次第である。

(上村松雄)

## 2. 文化財保護審議会の経過

### ◆第1回 7月1日(火) 15時00分～16時30分

《出席者》 大島伊一会長、武田正史職務代理、宮沢孝美、丸山克巳、井上信夫の各委員。事務局：井口教育長、上村課長、竹内補佐、石原主査、菅沼主任。  
《内容》

会議は井口教育長・大島会長の挨拶の後、15年度事業計画、発掘調査予定、国宝保存修理・発掘調査報告書作成の進捗状況等が報告された。

引き続き今年度の指定候補物件について、事情聴取と審議が行なわれた。結果、昨年継続審議となった下条の天神ばやしを候補とすることに決定。保存会の現状や活動などをきちんと調査し、場合によっては次回保存会から事情聴取することも申し合わせた。他に課長から広域合併までの文化財保護審議委員の任期延長について依頼があり、委員の了承を得た。

### ◆第2回 9月24日(水) 13時30分～15時30分

《出席者》 大島会長、武田職務代理、田村、庭野、宮沢各委員。事務局：上村、竹内、石原、菅沼。  
《内容》

会議に先立ち、博物館ロビーで下条天神ばやし保存会会員による「天神ばやし」の実演を見学。この内容はビデオに撮影され記録保存された。

会議は挨拶の後審議に入り、下条の天神ばやし保存会幹部からの事情聴取を含め、指定の是非について意見の交換が行なわれた。意見は賛成と慎重論に分かれ、次回結論を出すこととなった。

次に、前年末に史跡指定未同意地主の最後の一人から同意を得ていた、笹山遺跡の追加指定について審議され、15年度末を待つより、間を空けずに15年中に追加指定の方向で意見集約がなされた。

又、天神ばやしが見送りとなった場合の指定候補に、今回欠席の丸山委員からの意見として、十日町諏訪社の樋口五郎兵衛奉納絵馬はどうかとの案が事務局より提案されたが、次回の検討事項となった。

審議後、発掘調査等事業の報告が行なわれた。

### ◆第3回 11月25日(火) 15時00分～17時00分

《出席者》 大島会長、武田職務代理、田村、庭野、宮沢、井上の各委員。事務局：上村、竹内、石原、菅沼。

### 《内容》

審議では始めに、諮問を受けた笹山遺跡未同意地の解消に伴う追加指定について説明が行なわれ、審議を経て追加指定の答申がなされた。

引き続き懸案の下条の天神ばやしについて審議されたが、市内飛渡地区や広域合併を控えた他町村でも同様な歌詞を持つ天神ばやしがある事、節回しは各地区で微妙に違う事、現在も広く唄い継がれているなどの理由で、指定には慎重な意見が大勢を占め指定には至らず、今後の課題として保留となった。

また、前回提案のあった奉納絵馬については、今年度ではなく次年度以降で検討することになった。

報告では発掘調査、報告書作成、次年度文化財課の方針・重点、主な事業と予算等について事務局より説明が行なわれ、それぞれ了承された。

### ◆第4回 3月2日(火) 10時00分～12時00分

《出席者》 大島会長、田村、宮沢、丸山の各委員。事務局：上村、竹内、石原、菅沼。

### 《内容》

今回の審議会では、合併を控えた平成16年度に臨むため、合併予定の近隣町村の指定文化財について知識を得る必要があることから、各種資料を元に現状を把握する勉強会を始めることになった。

会議では本市と他町村の文化財の内容を比較検討しながら活発な意見交換が行なわれた。

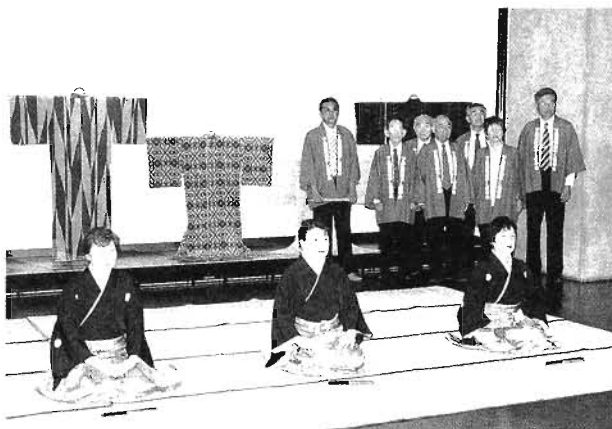


写真 下条の天神ばやし実演

### 《関連行事》

△文化財保護研修会（中魚沼郡・十日町市社会教育振興会主催）於川西町総合センター 11月7日(金) 13時15分～16時30分。会議の前に新潟県立歴史博物館の特別展「人と動物展」を見学。委員5名、事務局2名が参加した。

(竹内俊道)

### 3. 予算と決算

平成15年度の予算では、国庫補助事業による国宝保存修理事業の継続、発掘調査報告書の16年度刊行のための遺物・資料整理が認められ、又、緊急地域雇用特別交付金での笹山遺跡範囲確認調査費用が増額され、遺物整理事業が継続される事になった。なお、15年度からは企画人事課から国宝館・火焰の都事業が文化財課に移管されたが、予算は文化財課には組み込まれていない。年度当初の予算は昨年に比べ16%増の32,640千円。補正予算を経て決算は24,213千円となる見込みである。

内容は大別すると(1)一般経費、(2)文化財保護調査

費、(3)埋蔵文化財関係経費からなる。

(1)は経常経費で、文化財保護審議会の開催、車両の維持管理などで、ほぼ前年度並みである。

(2)は、文化財指定に係る調査の他、維持管理費、指定文化財管理委託料、補助金が組み込まれている。

(3)では、今年度も試掘確認調査事業に国県の補助を入れ、発掘等に取り組むとともに、国宝館・火焰の都計画に基づく笹山遺跡範囲確認調査を実施。馬場上遺跡発掘調査報告書に続く伊達八幡館跡の報告書刊行に向けて整理中である。また、緊急地域雇用特別交付金での遺物整理を引き続き実施している。

(竹内俊道)

#### 歳入予算（決算見込）

(単位：千円) ※3月12日現在

| 12款 国庫支出金     | 2項 国庫補助金            | 4目 教育費国庫補助金 | 予 算 額 | 決算見込額 |
|---------------|---------------------|-------------|-------|-------|
| 節             | 説 明                 |             |       |       |
| 4. 社会教育費補助金   | 25. 遺跡調査遺物整理補助金     |             | 2,100 | 2,100 |
|               | 26. 国宝修理保存補助金       |             | 2,001 | 2,001 |
| 13款 県支出金      | 2項 県補助金             | 7目 教育費県補助金  |       |       |
| 3. 社会教育費県補助金  | 20. 遺跡調査遺物整理補助金     |             | 840   | 840   |
|               | 36. 国宝修理保存補助金       |             | 1,000 | 1,000 |
| 18款 諸収入       | 4項 受託事業収入           | 2目 教育事業受託収入 |       |       |
| 1. 遺跡調査業務受託収入 | 5. ほ場整備事業遺跡発掘調査受託収入 |             | 2,000 | 2,000 |

※他に、労働費予算で緊急地域雇用創出特別基金事業補助金4,236千円がある。

#### 歳出予算（決算見込）

(単位：千円、千円未満切り上げ) ※3月12日現在

| 節        | 説 明                                                                               | 予 算 額  | 決算見込額  |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|
| 1.報 酬    | 文化財保護審議会委員報酬154・嘱託職員報酬4,656                                                       | 4,810  | 4,777  |
| 7.賃 金    | 臨時職員賃金1,928・発掘調査人夫賃金3,577<br>遺物整理人夫賃金1,575・文化財保護人夫賃金ほか228                         | 7,308  | 7,305  |
| 8.報 償 費  | 指導者謝礼ほか                                                                           | 140    | 111    |
| 9.旅 費    | 費用弁償43・普通旅費167                                                                    | 210    | 170    |
| 11.需 用 費 | 消耗品費579・燃料費41・印刷製本費434・修繕料225                                                     | 1,279  | 1,114  |
| 12.役 務 費 | 手数料21・保険料33・通信運搬費197                                                              | 251    | 215    |
| 13.委 託 料 | 指定文化財管理522・遺物整理作業2,000<br>地形測量452・遺物実測作業600<br>笹山遺跡範囲確認調査2,236<br>国宝土器修理保存作業3,927 | 9,737  | 9,730  |
| 14.使用料ほか | コピー使用料300・発掘用重機借上料191                                                             | 491    | 491    |
| 16.原材料費  | 遺構保存用原材料                                                                          | 0      | 0      |
| 18.備品購入費 | 文化財資料                                                                             | 150    | 150    |
| 19.負担金ほか | 指定文化財保存修理事業費補助金                                                                   | 150    | 150    |
| 27.公 課 費 | 自動車重量税                                                                            | 14     | 0      |
| 合 計      |                                                                                   | 24,540 | 24,213 |

(岩田恵美子・富井寛人)

## II. 指定文化財

### 1. 新指定の文化財

平成15年度は11月27日付けで史跡1件を市指定文化財に追加指定した。市の指定文化財件数は14年度と同じ計46件である。(巻末指定文化財一覧表参照)

◎笹山遺跡(種別:記念物 史跡)

#### 《文化財の現状》

笹山遺跡は、信濃川右岸段丘上の緩やかな傾斜地に立地し、標高は約170～180mを測る。表面採集資料をもとに昭和48年9月16日に遺跡として登録された。昭和55年11月の市道改良工事に伴う事前確認調査、その前後に実施した分布調査などの成果により、約30,000㎡の広がりをもつ縄文時代中期及び中世の大遺跡であることが明らかになっている。

その後、野球場、スポーツハウス、陸上競技場等の建設工事に伴い、昭和60年まで計6回の発掘調査が行われている。調査延面積は15,460㎡である。

遺跡の推定範囲のうち、10,930.76㎡(34筆)については、平成4年12月3日に市史跡として指定されている。今回追加指定された3,414.59㎡(10筆)の区域は、市史跡に隣接する場所にあり、過去に縄文土器や石器などの遺物が数多く採集されたことから、笹山遺跡の範囲に含まれると推定されていたエリアである。現況は畑地または雑種地である。

#### 《文化財の概要》

笹山遺跡は、発見された当初は約2,000㎡前後の小規模な集落跡であると考えられていた。しかし、詳細な分布調査や発掘調査の進展などにより、その範囲がかなり広がることや、遺跡のほぼ全域が東側の山から幾度となく押し寄せた土石流によって埋没しているものの、遺構及び遺物の保存状態は良好であることが明らかになった。

これまでの発掘調査により、112軒にのぼる縄文時代中期の炉跡、数多くの土坑、埋甕などが何層にもわたって検出されている。また、出土遺物も極めて豊富で、火焰型土器や王冠型土器など信濃川上・中流域を代表する越後系の土器が数多く発見されており、これらの土器に伴って東北系、中部高地系、汎北陸系の土器が出土している。このほか石器類も豊富で、特に打製石斧、磨石類の比率が高い。土製

品(土偶、耳飾り)や石製品も多く認められる。

また、縄文時代の遺物包含層の上からは、中世の武家屋敷跡と推定される掘立柱建物跡20軒と鍛冶工房跡などが検出され、陶磁器、鉄製品、銭貨などが発見されている。

#### 《指定理由》

- (1)笹山遺跡は縄文時代と中世の複合遺跡である。中でも縄文時代の竪穴住居跡、土坑、埋甕などが数多く検出されており、当地域を代表する大集落遺跡である。また、中世の掘立柱建物跡、鍛冶工房跡などは中条氏、大井田氏と関連する遺構である。
- (2)出土遺物は縄文時代の土器、石器、土製品、石製品、植物遺存体のほか中世の陶磁器、鉄製品等からなる。これらは質量ともに極めて豊富であり、研究上重要な資料である。
- (3)この遺跡の重要性を鑑みると、史跡として十日町市文化財に指定することが望ましい。

#### 《参考となる事項》

笹山遺跡出土品は、平成2年2月22日に市文化財に一括指定され、うち918点が平成3年3月29日に県文化財となり、平成4年6月22日には10点を加えた928点が重要文化財に指定されている。

平成11年6月7日付けの官報告示により、深鉢形土器57点をはじめとする928点の出土品は新潟県初の国宝に指定された。現在、全国で2件しかない縄文国宝の出土地という遺跡の重要性に鑑み、このたび関係者のご理解とご協力により指定同意の得られた10筆について追加指定の運びとなった。これにより、笹山遺跡の推定範囲のうち未発掘地の全域が市の史跡として指定され、保護措置が講じられることとなった。

#### 【参考文献】

- 菅沼 亘ほか 1998 『笹山遺跡発掘調査報告書』  
十日町市教育委員会
- 菅沼 亘編 1999 『図録 笹山遺跡—国宝指定笹山遺跡出土品のすべて—』 十日町市博物館  
(石原正敏)



A B 区の作業風景（1981年）



J P 区の作業風景（1985年）



D 区の作業風景（1982年）



D 区の炉跡実測作業（1982年）



D 地区 5 号炉跡（東より）



D 区 16 号住居跡（北東より）



J P 区 5 号炉周辺の埋設土器



火焰型土器出土状況模型の前で語る十日町市博物館名誉館長 梅原 猛氏（2000年）

## 2. 指定文化財の保存と管理

### ■指定文化財標柱設置事業

文化財に指定された物件について、その存在を明確にし、広くその存在を知らせる意味で、屋外の指定物件（建造物、史跡、名勝、天然記念物など）を対象に文化財標柱を設置している。標柱は木柱のため数年で朽ちてしまうので順次立替えが必要となる。15年度には管理者に実施したアンケートと巡回の結果、腐蝕が進んだ大黒沢梵字碑と積翠荘の標柱を冬期に製作し、雪消えを待って立替えを実施した。

### ■指定文化財説明板設置事業

標柱と同様、屋外の指定物件に順次設置している。指定文化財に近接して設置し、文化財の概要などを記して見学者の便をはかるとともに、文化財の保護意識を育むことを目的としている。12年度で屋外の指定物件についての説明板設置は完了しているため、15年度も新たな設置はなかった。

### ■文化財保存管理委託・補助事業

市教委では、指定した文化財の保存・管理等のため、所有者・管理者に対し管理委託と補助を定額で行なっている。管理委託の対象となる文化財は、清掃・雪囲い・除雪などが必要な屋外の物件であり、補助の対象は、無形民俗文化財のうち伝承にかかる内容のみである。15年度から14年度指定の水沢石場かちが追加となった。内訳は巻末資料参照（23頁）

### ■文化財保存修理事業

15年度の事業実施はなかった。

ただ、県指定の建造物「神宮寺観音堂・山門」茅屋根葺替工事が、茅屋根の維持には不断の補修を必要とするので、神宮寺では毎年単独で、茅屋根部分修理を実施している。新年度からの補助事業採択を県に働きかけている。

### ■その他

#### (1)鉢の石仏指定地内照利庵補修ほか

鉢の石仏指定地境内にある旧庵寺照利庵の窓が腐蝕し、雨漏り等の恐れがある旨、管理者から連絡が入った。課長と担当者が現地確認後、保存会と協議して、地元保存会で対応するよう依頼した。又、境内地内の竜天池の水が抜けて溜まらない状態を改善

するため、底をコンクリートを敷く申し出があったが、景観と風致になじむ様な施工をするよう指導した。地元では観光地でもあることから市の商工観光課に協力を依頼し、原材料補助を得て池を改修した。

#### (2)小貫の大スギ枯枝の除去

県の文化財パトロール員でもある丸山克巳文化財保護審議会委員から、小貫の大杉の枯枝が途中に引っかかり落下すると危険ではないかとの指摘を受け、担当者が視察。除去の方法も検討してみたが、高所であり作業が難しく、人里離れた場所のため被害が想定しにくいため実施を見送った。

#### (3)所蔵文化財資料の整理と補修等

人夫賃金を使い、民具資料等の補修及び整理を行なった。また、カメラマンに依頼して土器・民具・着物等の資料記録撮影にも取り組んだ。

#### (4)文化財及び博物館研修

3月2日、15年度に民間企業と共同で取り組んだ高画質・高セキュリティによる十日町市博物館・文化財課所蔵資料のデジタル化事業の成果を元に、共同制作者である(株)第一印刷所から講師を招き、これからのIT社会を視野に入れ、デジタルミュージアムの動きを見据えた文化財・博物館資料の活用を中心に話を聞いた。その後、職員・関係者に博物館と文化財資料の保存と活用についてを含む、将来の博物館資料保存と活用について意見交換をした。

#### (5)銃砲刀剣類等登録取り扱い

15年度の登録取扱いはなし。

#### (6)カモシカの食害

8月初め、職員が秋葉山城跡でカモシカを目撃し、収穫時の食害が心配されたが、発生したとの連絡は特になかった。県を通じて平成9年、12年、14年と三度の食害報告を行なったが、近年カモシカが増えているようで、目撃情報も度々寄せられている。被害者には自衛をお願いするばかりで、文化財課としてはこれといった対策がとれないため、申し訳なく思っている。県を通じて文化庁の指導を仰いでいるが、文化庁は天然記念物保護の立場に立つため、有効な被害対策は示されていない。

(竹内俊道)



### III. 埋蔵文化財

#### 1. 発掘調査

平成15年度の発掘調査の内訳は、本調査1件、確認調査3件、試掘調査4件である。調査原因は、農業基盤整備事業、県営住宅団地造成事業、林道建設、工事用残土置き場造成となっている。以下、各調査の概要をまとめるが、その詳細については本書と同時に刊行される『江道A遺跡発掘調査概要報告書』、『平成15年度十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書』を参照願いたい。

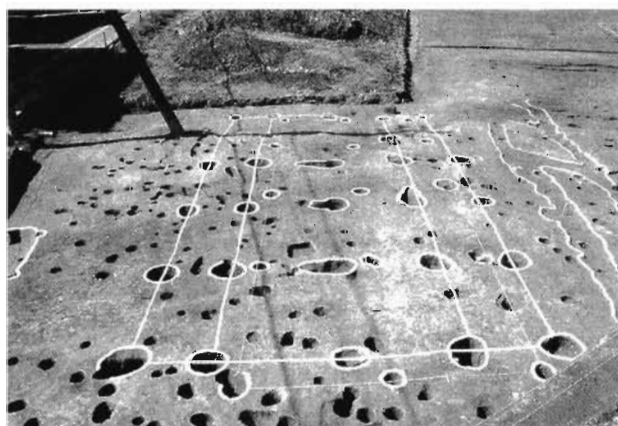
#### 本調査

##### ①江道A遺跡（江道地内）

江道A遺跡は、市街地の東側に接する江道集落の西端、主要地方道十日町・六日町線の道沿いに位置し、信濃川の支流である田川の右岸河岸段丘に立地する。

調査は、団体営集落地域整備統合補助事業に伴い、平成15年8月1日～10月20日まで行われ、中世の集落跡が発見されている。調査面積は約960㎡である。遺跡の現況は水田と畑地で、田川の氾濫、北側に接する丘陵斜面の土砂崩れ、水田造成時の削平などの影響を受けており、保存状況はあまり良好でなかった。

検出された遺構は、掘立柱建物跡3棟、土坑1基、柱穴などである。3棟の建物跡はいずれも東西方向を向き、第1号と第2号建物跡は重複している。中でも第1号建物跡は最も規模が大きく、桁行5間(12.6m)×梁間2間(3.7m)で、北南2面に幅1.3mの庇が付く。第2号建物跡は桁行4間(12.6m)×梁間2間(4.4m)で、庇は確認されていない。



第1・2号掘立柱建物跡

第3号建物跡は桁行3間(9.5m)×梁間2間(4.8m)で、南側に幅1.5mの庇が付く。土坑は長軸2.3mの隅丸方形を呈し、深さ12cmほどである。遺物が出土しておらず、時期・性格とも不明である。

建物跡の時期については、第3号建物跡の柱穴より山茶碗系陶器が出土しており、13世紀頃であろう。一方、第1・2号建物跡は遺物を伴っていないが、青磁・珠洲焼などの出土状況から判断して、13～14世紀頃のものと思われる。

遺物は、主に中世の陶磁器類が出土しており、舶載品と国産品がある。舶載品は白磁と青磁で、後者には鎗蓮弁文碗、劃花文碗、同安窯系碗、雷文帯をもつ碗などがみられる。国産品には、山茶碗系陶器、瀬戸美濃焼の反り皿（輪花）・緑釉皿・天目茶碗、珠洲焼の甕・壺・播鉢、土師質土器の皿などがある。これらは、おおむね13～16世紀のものと思われる。この他に、砥石、石鍋（破片）などもある。

また、近世の陶磁器類も若干出土しており、17世紀の越中瀬戸の丸皿、広口壺、唐津焼の溝縁皿、段皿、小瓶、須佐唐津の播鉢、18世紀後半の肥前系磁器などが見られる。



出土した陶磁器類

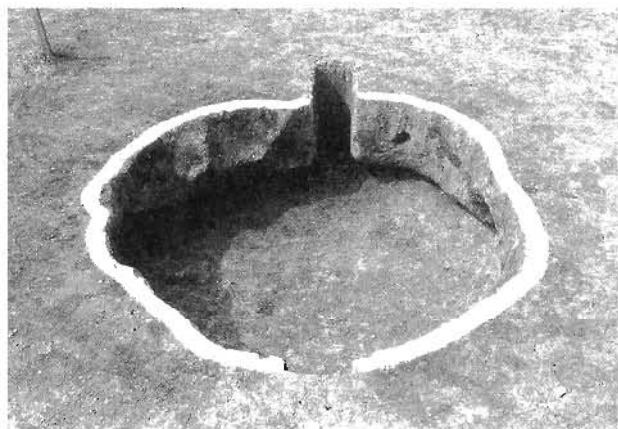
江道地区は、『中魚沼郡誌』に「口碑伝わらず」と記述され、発祥が明らかでなく、江戸時代初期に開発されたと言われてきたが、今回の調査により13～14世紀を中心とした中世集落の存在が明らかとなった。また、本遺跡は、戦国期の越後国魚沼郡美佐島郷および新田一族の小森沢氏との関連もうかがえる。なお、平成16年度には、引き続き江道B遺跡、同C遺跡が調査される予定であり、同時期の集落跡が発見される可能性が高い。

## 確認調査

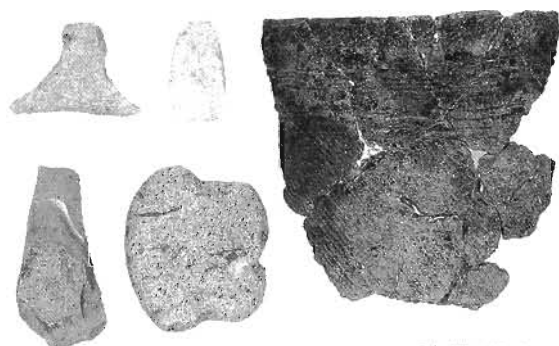
### ①大道下遺跡（小泉第3地内）

大道下遺跡は、市立吉田小学校の東方約500m、小泉集落の東側にあり、信濃川左岸の河岸段丘（千手面）上に立地する。遺跡の東側300mには、段丘崖が迫る。なお、本遺跡の西側至近には、石橋遺跡（縄文中期）が存在する。

調査は、県営小泉沖之原住宅団地造成事業に伴い、平成15年4月21日～6月10日まで行われ、縄文時代中期の遺跡が発見されている。調査面積は960㎡である。遺跡の現況は水田であり、昭和40年代前半の大規模な圃場整備により現在の区画に整備されている。従って、遺跡の大部分はかなりの削平を受けており、保存状況は良好でなかった。



フラスコ状土坑



出土した土器・石器

検出された遺構は、フラスコ状土坑1基と柱穴などである。この土坑は、上面が長軸1.6m×短軸1.5m、底面は長軸1.7m×短軸1.6mの不整円形を呈し、深さ40cmほどである。覆土中より若干の土器が出土している。

遺物は、土器、石匙、搔器、打製・磨製石斧、石錘、磨石類、石皿などが出土している。土器は、前期末～後期初頭のものが見られる。（菅沼 亘）

### ②狐城跡（中条島地内）

狐城跡は、工事用残土置き場整備等に伴い、これまで平成13年5～6月、14年7～9月の2次にわたる確認調査を行っている。今年度は残りの約230㎡について、6月23日～9月5日の計30日間にわたって調査し、砦のほぼ全域にあたる約930㎡の調査が終了した。不順な天候と遺構を傷めないよう人力で抜根等を行ったために、予想以上に時間を要した。

今年度の調査の結果、掘立柱建物跡2棟が確認された。第1号建物跡は、南北3間（6.0m）×東西1間（4.3m）の大きさで、柱穴の平均的な大きさは直径約40cm、深さ約40cmである。第2号建物跡は、南北3間（5.1m）×東西1間（3.6m）の大きさで、柱穴の平均的な大きさは直径約35cm、深さ約20cmである。建物跡はいずれも南北を長軸とするが、平行ではない。柱穴が切り合っていないため新旧関係は不明であるが、第2号建物跡が古く、第1号建物跡が新しいと思われる。また、生活用具である陶磁器類がほとんど出土していないため正確な時期は不詳であるが、室町時代～戦国時代にかけて、この場所が砦として機能していたと推定される。



掘立柱建物跡と竪穴住居跡

その一方で、砦のほぼ中央から縄文時代中期後葉期の竪穴住居跡が1棟検出された。直径約5mの円形の住居跡と推定されるが、木の根による攪乱が激しく、過去の調査で壁の掘り込み部分が削平されており、壁は全体の4分の1が残存するのみである。住居跡のほぼ中央からは複式炉が検出されている。川原石を巧みに組み合わせて作られており、炉内に計2基の埋甕がある。長時間にわたる火熱により、ほとんどの炉石は表面が赤化していた。

縄文土器および石器は平箱で計6箱出土している。土器は、文様の特徴などから大木9式を中心とする時期のものと推定される。

### ③笹山遺跡（中条上町地内）

国宝館・火焰の都整備事業に関連して、国宝出土地である笹山遺跡（市指定史跡）の国・県史跡への格上げを目指し、平成14年秋に引き続き、15年度も範囲確認調査を行った。今年度は市史跡指定地内の西側を中心に、9月25日～12月18日までの計49日間にわたって、計126㎡の範囲を調査した。不順な天候や作物を傷めないよう人力中心の調査となったため、調査面積に比して多くの時間を要した。なお、調査にかかる経費は、新潟県緊急地域雇用創出特別基金事業の適用を受けた。

畑地または雑種地に幅2m×長さ5m×深さ1～3mのトレンチを12本設けて調査を行ったが、その結果、遺物や遺構の広がりや市史跡指定地の範囲にほぼ収まることが明らかになった。トレンチ内においては、必要に応じて年代測定または花粉分析などのためのサンプリング資料を採取した。

縄文土器および石器は平箱で計3箱出土している。土器は、文様の特徴などから中期中葉～後葉を中心とする時期のものと推定される。



調査風景

その一方で、範囲確認調査と並行して、10月18日と11月16日には土石流および活断層に関する調査が、太田陽子氏（横浜国立大学名誉教授）をリーダーとする研究グループによって行われた。現地における所見では、陸上競技場に近い遺跡の北西側は東側や南側に比べて土石流が非常に厚く堆積しており、土石流が発生した時に縄文時代の地層を削り取った可能性があるとの指摘があった。既存の発掘調査データ等も含めた総合的な分析結果は、平成16年度末を目途にまとめられる予定である。

なお、平成16年度はスポーツハウスの東側を中心に集落構造等を詳しく調べるための内容確認調査を行う予定である。（石原正敏）

### 試掘調査

林道中魚沼丘陵線建設（名ヶ山地内）、団体営集落地域整備統合補助事業（美佐島地内）、県営担い手育成基盤整備事業（宇田ヶ沢・菅沼・山新田地内）、県営農地環境整備事業（東枯木又地内）に伴い試掘調査が行われている。

林道建設に伴う調査では、対象範囲が中林Ⅰ遺跡の隣接地であることが判明した。他の3件は圃場整備事業に伴うものであるが、いずれの地区においても未周知遺跡の存在は確認されていない。

### 遺物整理

上記の調査に伴う遺物整理を水洗・注記作業を中心に行っている。なお、江道A遺跡と笹山遺跡を除いた調査の整理については、国・県補助事業経費の中で行った。以上の他に、緊急地域雇用創出特別基金事業（4年継続の3年目）に伴い、野首遺跡（平成8年調査）出土遺物の水洗・注記作業を継続して実施している。

また、江道A遺跡の本調査と国・県補助事業に伴う試掘・確認調査については、それぞれ発掘調査概要報告書を刊行している。

土器の復元作業については、平成9年より野首遺跡を中心に進めている。今年度は30個体ほどが新たに復元され、これまでに復元された土器の総数は大小合わせて約130個体ほどになる。

## 2. 発掘調査報告書刊行事業

平成15～20年度の重要遺跡発掘調査報告書刊行計画については、すでに前号で示した。今年度は、平成17年3月の刊行をめざして伊達八幡館跡の報告書作成作業を行っている。

遺構は図面整理を行い、掘立柱建物跡、空堀など個別遺構のエレベーション図（1/40）などを作成した。遺物は、仏具（燭台・花瓶・錫杖の頭）、木製品、漆器、曲物、硯など中世遺物の他に、石鏃、磨製・打製石斧など縄文時代の石器類について、実測図の作成を業者委託で行っている。また、中世陶磁器類については、器種分類と実測が必要な資料の選出を行った。この分類・整理にあたり、鶴巻康志・水澤幸一の両氏よりご教示をいただいている。

来年度予算で印刷費が認められたため、予算の範囲内で報告書を刊行する予定である。（菅沼 亘）

当間高原リゾート遺跡群の研究(1)

第1図 当間高原リゾート遺跡群 (S=1:50,000)

– 10 –

石斧、磨石、石皿、敲石などが出土している。土製品にはミニチュア土器、土製耳飾り、土偶、三角形土偶、粘土塊などがある。

ぼんのう遺跡では住居址4軒、焼土跡10ヶ所、フラスコ状土坑1基などの遺構が検出されている(阿部ほか1993、菅沼ほか1996)。住居址は直径4～5mで円形を呈し、1号住居址には中心に石組炉がある。土器は縄文中期中葉～後葉が主体を占める。石器は石鏃、打製石斧、磨製石斧、三脚石器などが出土している。土製品には土偶、三角形土偶、三角壺土製品などがある。石製品は石棒で直径約15cm、長さ約45cmを測る大型のものであり、頭部に正円と三叉文を組合わせた彫刻が施されている。側面に凹みのある石と並んだ状態で出土した。また、これより約8m南から祭壇状の平たい大きな石と焼土跡、炭化物などが確認されている。

珠川A遺跡では住居址3軒、フラスコ状土坑4基、焼土跡などが検出されている。また、石棒がフラスコ状土坑の壁に埋め込まれた状態で見つかり、別のフラスコ状土坑出土の破片と接合したことは、石棒の祭祀を考える上で特筆される発見である。ぼんのう南遺跡では住居址2軒、土坑2基、フラスコ状土坑6基、焼石群などが検出されている。ぼんのう遺跡と密接な関係をもつ遺跡と推定される。

なんぜん萱場遺跡では、住居址1軒、フラスコ状土坑4基、落とし穴2基などが検出されている。

#### 調査成果と課題

調査成果は枚挙にいとまがないが、①珠川台地における縄文時代の集落変遷をある程度明らかにすることができた、②フラスコ状土坑、落とし穴等を多数検出したことにより、山間部における狩猟や食糧貯蔵のあり方、ひいては集落構造を探る具体的なデータが集積された、③彫刻石棒、三角壺土製品、三角形土偶など祭祀に関わると考えられる遺物が多出

し、出土状況等も良好なことから、精神文化解明に向けた重要な手がかりを得ることができた、ことなどが挙げられるだろう。

新潟県における石棒・石剣等の出土遺跡は100遺跡をはるかに超えるが、彫刻石棒出土遺跡はその1割に満たない(阿部ほか1993)。ぼんのう遺跡や珠川A遺跡は他の遺跡に比べて宗教性の強い遺跡であると考えているが、今後さらなる遺物・遺構の詳細な検討と関連するデータの収集・分析が必要と思われる。

#### おわりに

珠川台地において国営苗場山麓農地開発計画に伴う予備調査が行われてから間もなく30年が経つ(中川ほか1975)。当時調査対象となった遺跡の多くは、リゾート開発の渦中で記録保存後に壊され、道路やゴルフ場等に姿を変えた。今回は紙数の関係で調査概要紹介にとどまったが、近い将来、発掘調査報告書としてまとめたいと考えている。

最後になったが、7ヶ年にわたり現場で一緒に汗を流した補助員・作業員の皆さんのご尽力と当初3ヶ年の委託契約を2度も延長いただいた(株)当間高原リゾートのご理解とご協力に厚く御礼申し上げる。

#### 引用・参考文献(50音順)

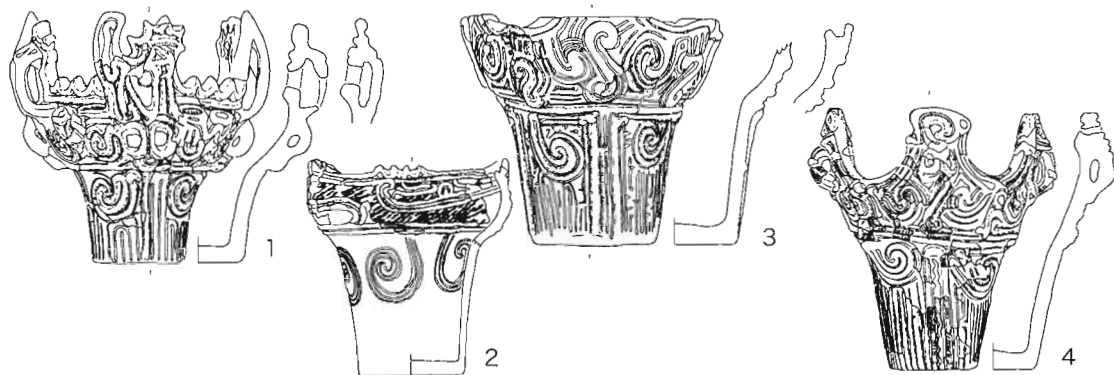
阿部恭平・石原正敏・菅沼亘 1993「十日町市ぼんのう遺跡の調査」『新潟県考古学会第5回大会研究発表会発表要旨』

石原正敏編 1988『ガイドブック 十日町市の遺跡』十日町市博物館

石原正敏 1997「第二章縄文時代」『十日町市史通史編1 自然・原始・古代・中世』十日町市

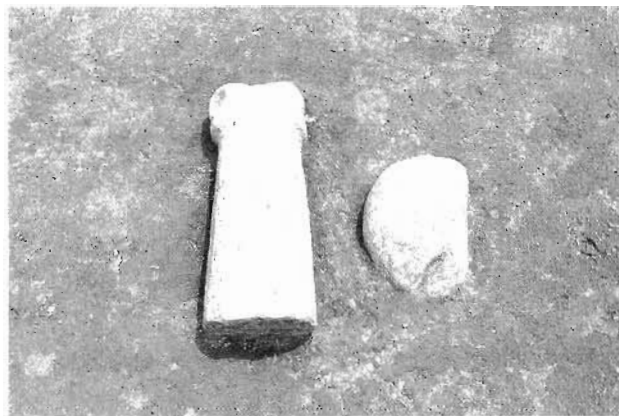
菅沼亘・阿部恭平・石原正敏ほか 1996『十日町市史資料編2 考古』十日町市

中川成夫ほか 1975『十日町市広域パイロット地域内遺跡群調査概報』十日町市教育委員会

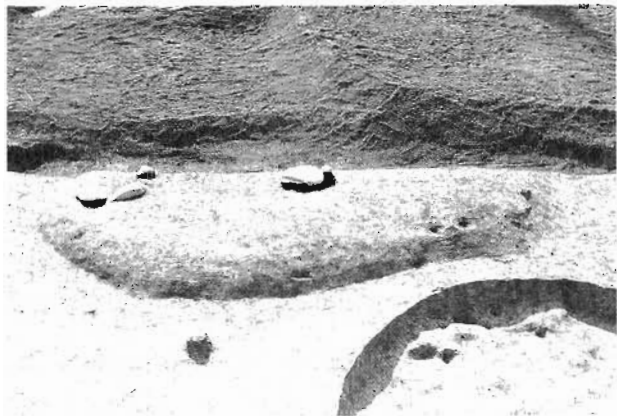


第2図 大井久保遺跡出土の土器(S=1:6)





ぼんのう遺跡 石棒の出土状況



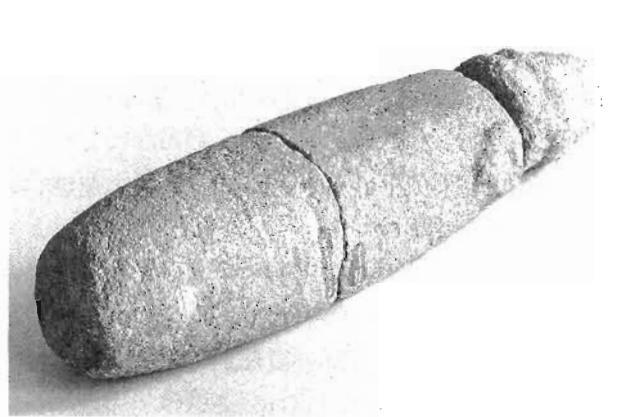
ぼんのう遺跡 祭壇状遺構



珠川A遺跡 遺跡全景



珠川A遺跡 石棒の出土状況



珠川A遺跡 接合した石棒



ぼんのう南遺跡 遺跡全景



ぼんのう南遺跡 フラスコ状土坑



なんぜん萱場遺跡

## 資料活用の試みから ― 資料のデジタル化に取り組んで ―

竹 内 俊 道

### 経緯

新潟県で進める情報化に関する15年度の支援事業（担当：県総合政策部情報政策課）に、共同参画者として十日町市博物館（文化財課）が参画し、新潟県 I S ・ I T S 推進協議会会員である㈱第一印刷所が提案した「ミュージアム収蔵作品の高解像度・高セキュリティによる配信事業」が採用された。

この事業は、博物館収蔵資料の写真を高解像度・高セキュリティでデジタルデータ化し、インターネットホームページへ配信するもので、いわゆるデジタルミュージアム構想を具体化する試みである。

3月末を目途に実績報告を提出し、新年度早々試験的にホームページで公開の予定であるが、博物館・文化財課の新たな取り組みとしてここに紹介する。

### 館の姿勢と対応

㈱第一印刷所の提案を受けた当初から博物館（文化財課）では、地域文化資源としての館有文化財資料活用と利用者・来館者層拡大の可能性を探る取り組みと位置づけ、積極的に協力することにした。

この採択を受け、㈱第一印刷所の担当者と本格的に打合わせを開始したが、館の目指す、資料の積極的公開活用を通じた利用者・来館者の拡大と資料写真やデータのデジタル化による保存機能強化、及び資料検索システムの整備による事務手続きの簡素化・迅速化などの問題提起に対し、どの程度技術的に対応できるかが検討課題となった。

又、市としての取り組みともなるため、関連部門として企画人事課新行政推進係と情報館とも情報交換しながら進めることにした。

### 資料の選択と内容の構成

インターネットで広く公開する以上、多くの人に閲覧して欲しいことは当然で、そのために魅力ある構成と内容にしなければならない。バーチャル・ミュージアムとして閲覧者の興味を喚起できるものとすべく、当館の資料の特性を活かしながら、専用にチャートをつくり構成を工夫するよう心がけた。

公開資料は着物資料（30点）、民俗資料（41点）、

考古資料（30点）に大別し、麻織物、絹織物、紡織用具、雪の民具、食べる、飾る、祀るのパートに分けて説明を付け、それぞれ国宝・重文資料を主に厳選し配置した。いくつかの資料では寸法や特徴等のデータも閲覧できる他、3D立体画像も用意されている。

### 資料利用とセキュリティの問題

資料映像や写真の利用は、資料の所蔵者・管理者として留意すべき点である。今回提供する資料写真は高解像度であるため、インターネットから直接入手し勝手に利用することができないよう設定している。但し、正規の手続きを経て利用を望むユーザーに対応するため、希望者にパスワードを発行し、インターネット上から直接資料写真を入手できるように設定した。

もちろん提供者である博物館側にも利用記録が残り、資料提供状況の管理ができるように工夫されている。さらに所定の操作をすれば、申請と許諾の事務手続きをインターネット上で処理できるような配慮も行なった。

実際の利用がどの程度になるかは未知数ではあるが、資料有効活用と事務処理能力向上に向けた試行の一環と捉えている。

### 活用への期待

以上、紙面の都合もあり、今回の資料デジタル化にあたっての工夫と問題点や留意点のみを略述した。博物館としてはIT時代の先進的な問題にいち早く対応し、活用を視野に入れて問題点等を想定し専門業者と技術的問題も含めて議論できたことは有意義であったと思う。こうした積極的な姿勢は今後の活動にとって決して無駄ではないであろう。

この試みが、地域の持つ文化資源の保存と積極的活用に関わり、インターネットを通じた十日町市の交流人口の拡大の一助になれば幸いである。

以後、この取り組みについては、実際の活用状況や効果を検証し、いずれ稿を改めて論述してみたい。

## 野首遺跡採集の抉入尖頭器

### はじめに

ここで紹介する尖頭器は、市内野首遺跡において採集され、市博物館に寄贈された資料である。この石器については、すでに紹介されているが（十日町市1996）、そこでは実測図を掲載して詳細な検討ができなかったため、今回改めて報告する。

### 遺跡の概要

野首遺跡は市内下条1丁目、JR飯山線と上新田集落との間に位置する（第1図）。遺跡は、信濃川の支流である飛渡川右岸の河岸段丘上に立地し、範囲は飛渡川の川床に近い段丘（石名坂面）から一段高い段丘（根深面）まで広がる。以下、前者を下段地点、後者を上段地点とする。現況は水田である。

下段地点では、1989年（平成元）に送電線鉄塔建設に伴い発掘調査が行われ、平安～中世の掘立柱建物跡4棟、溝跡などが検出されている。遺物は、当該期の陶磁器類の他に、縄文前期～後期の土器が若干出土している（十日町市前掲）。

上段地点では、以前より縄文時代の遺物が数多く採集されている。1996年（平成8）には、県営圃場整備事業に伴い発掘調査が行われ、竪穴住居跡12棟、掘立柱建物跡6棟、石組炉27基、配石遺構28基、埋設土器24基などが検出された。これらは、直径60mほどの環状もしくは馬蹄形に分布している。また、集落南側の土器捨て場より、火焰型土器を含む縄文中期中葉～後期前葉の土器、土製品、石器、石製品などが大量に出土している（菅沼ほか1997）。

なお、本石器が上段と下段のどちらの地点から採集されたものであるかは不明である。

### 石器の名称について

ここで紹介する石器のように、両端が尖るという特異な形態をもつ尖頭器は、以前より「両尖匕首」と呼ばれている（山内1972）。その後、埼玉県飯能市小岩井渡場遺跡出土の同様な尖頭器を分析した田中英司氏は、その用途・機能を規定する要素は尖っている両端よりも両側縁中央の抉入部であるとし、このような尖頭器を「抉入尖頭器」と呼称した（田中1988）。ここでは同氏の呼称に従っている。



第1図 遺跡の位置（1：50,000）

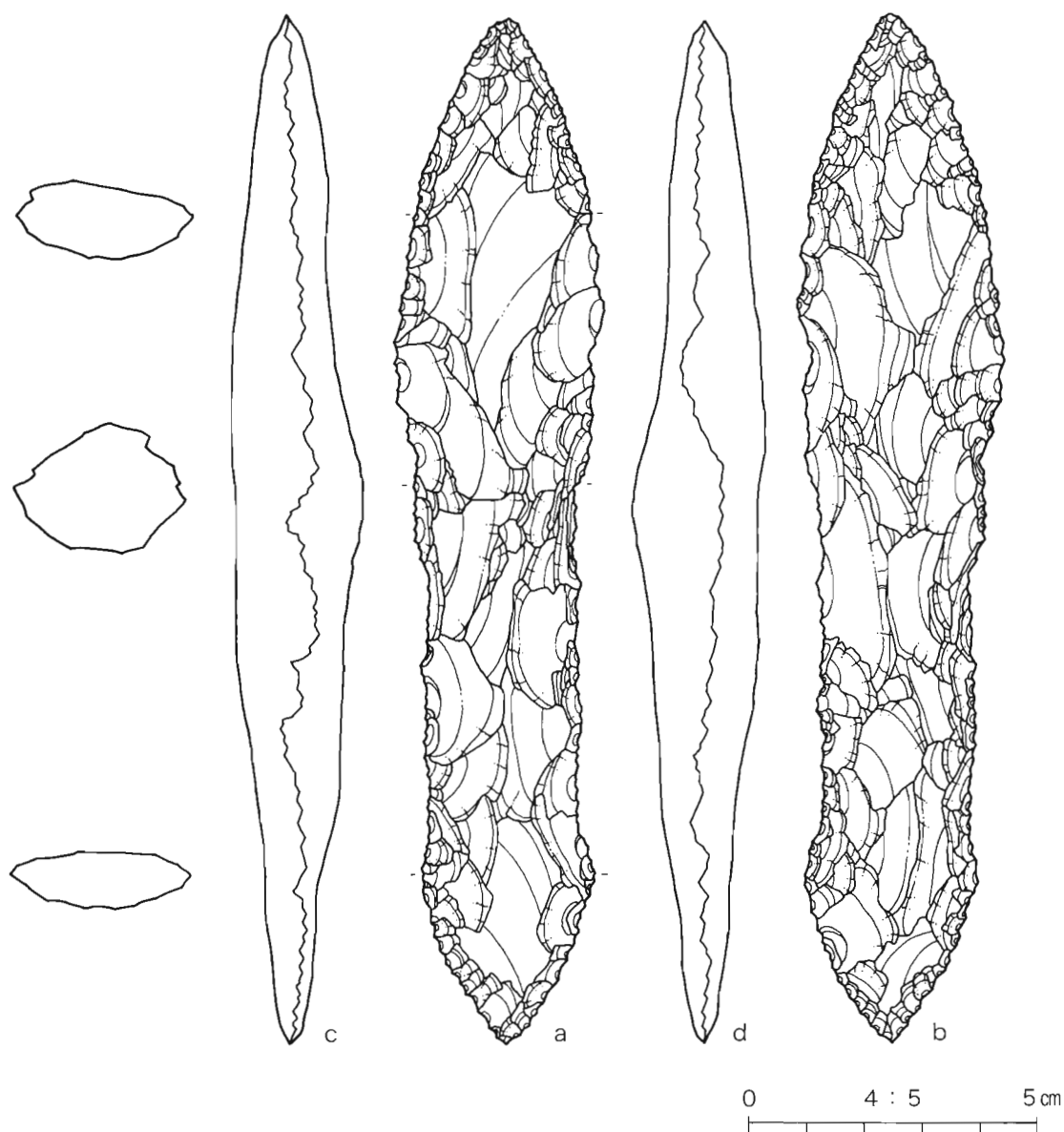
### 石器の記載（第2図）

表裏両面とも調整痕に覆われ、自然面を残していないことから、この石器が剥片と礫のどちらを素材としているか明確でない。側面観から判断すると、a面が素材剥片の背面、b面が腹面にあたり、かなり大型の剥片を素材としているものと推定される。また、a面に観察される先端部中央の右下方向、基部中央の左下方向からの大きな剥離痕は、調整によるものでなく、素材が剥離される以前のものである。法量は、最大長17.70cm、最大幅3.61cm、最大厚2.32cm、重量109.16g、石材は安山岩である。

a・b両面とも大型の面的な調整が行われた後に、周縁に細調整が施されている。いずれも階段状剥離となる調整が目立つ。断面形を見てわかるように、両側縁中央の抉入部は階段状剥離が著しく、両面とも右側縁にそれが集中する。これに対し、先端と基部の両側縁には平坦剥離となる細調整が多く観察され、調整が丁寧である。上下の尖頭部を意識して作られていたことがうかがわれる。

以上の調整により、先端部は木葉形、基部は逆三角形で、両側縁中央に抉りが入り、上下両端に尖頭部をもつ平面形が作り出されている。両側縁の抉りはそれほど深くなく直線状を呈する。断面は、先端部と基部が凸レンズ形であるが、抉入部は先端に近い部分は棒状で、基部に向かうにしたがい凸レンズ形に変化する。





第2図 野首遺跡の抉入尖頭器

おわりに

抉入尖頭器の全国集成と詳細な分析を行った田中英司氏によれば、この尖頭器はⅠ～Ⅲ類に分類され、その所属時期は縄文前期前半の関山Ⅰ～Ⅱ式期に位置付けられている（田中1995）。本遺跡の尖頭器はⅡ類に含まれ、遺跡の下段地点からは若干であるが、前期前半の繊維土器が出土している。

また、同氏は、東日本においてⅠ～Ⅱ類を出土する遺跡の分布集中域と東北地方南部の頁岩産出地帯の一致から、両者の結び付きを指摘している。県内では、朝日村高根と吉川町福平に頁岩製のⅡ類が存在し（新潟県1983・田中前掲）、十日町市域も頁岩産出地帯の周辺部に位置している。しかし、本遺跡の尖頭器は在地石材の安山岩製であり、頁岩地帯のⅡ類の中でも地域差が見られるようである。

#### 引用・参考文献

- 菅沼 亘ほか 1997 『野首遺跡発掘調査概要報告書』十日町市教育委員会
- 芹澤清八・小菅将夫 2003 「縄文時代の石槍 -大木式土器圏の様相との比較をととして-」『刺突具の系譜 予稿集』笠懸野岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会
- 田中英司 1988 「小岩井渡場遺跡出土の抉入石器」『考古学雑誌』第74巻第2号
- 田中英司 1995 「抉入意匠の石器文化」『物質文化』59
- 十日町市 1996 『十日町市史』資料編2 考古
- 新潟県 1983 『新潟県史』資料編1 原始・古代
- 山内清男 1972 「両尖匕首」『先史考古学論文集』新第五集 先史考古学会

## V. そ の 他

### 1. 文化財関連博物館事業

平成15年度に博物館で行われた文化財に関連する各種事業の概要を紹介する。

#### 特別展

##### (1)夏季特別展

「大井田健一―父祖の地を描く―」

期間：7月12日(土)～7月21日(月)

会場：博物館 特別展示室

今年、中世魚沼の豪族・大井田氏が鎌倉幕府打倒のために挙兵して670年目にあたり、第4回全国大井田氏サミットが十日町市で開催されるのにあわせて特別展を行った。大井田氏の末裔である画家・大井田健一氏が一族の苦難の歴史を絵物語としてまとめた作品を中心として、過去の作品を含めた76点を展示公開した。期間中の入場者768名。



夏季特別展展示風景

#### ◆記念講演会

「先祖の地を描いて思うこと」

期日：7月17日(木) 13:30～15:30

会場：博物館 特別展示室

講師：大井田健一氏（画家）

大井田健一氏が大井田氏一族の歴史を描いた作品について、それぞれの場面設定や実際に描いてみて感じたことなど詳しく解説をしていただいた。当日の聴講者83名。

##### (2)秋季特別展

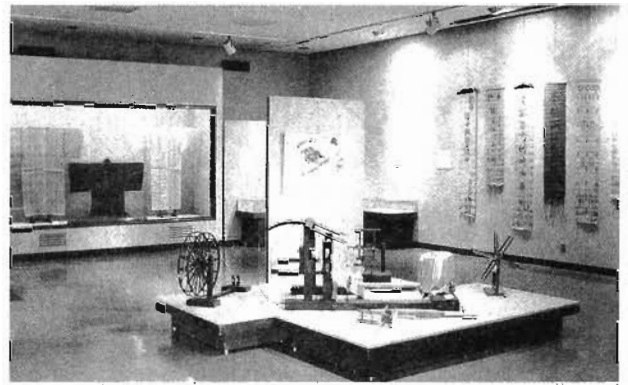
「越後縮の文様と美」

期間：10月4日(土)～10月26日(日)

会場：博物館 特別展示室

十日町ステージ越後妻有交流館「キナーレ」内に「きもの歴史館」が開館したことを記念して、江戸

時代に魚沼地方の特産品としてさかんに生産された麻織物・越後縮の文様の美と伝統をさぐる特別展を開催。文様を作るための道具類、見本帳、越後縮製品などの当館収蔵資料の他、八重山上布・宮古上布、小千谷縮布見本帖（新潟県指定文化財）などの貴重な借用資料を含め、128点を展示公開した。期間中の入場者1,669名。



秋季特別展展示風景

#### ◆記念講演会

「麻織物の伝統」

期日：10月4日(土) 13:30～15:30

会場：博物館 ロビー

講師：芳井敬郎氏（花園大学教授）

越後縮を含めた麻織物の歴史と伝統について、具体的な例を取り上げながら、分かり易く解説していただいた。聴講者135名。

##### (3)冬季特別展

「収蔵資料展―暮らしを彩る着物と品々―」

期間：16年2月20日(金)～2月22日(日)

会場：博物館 特別展示室

第55回十日町雪まつり協賛事業として、収蔵資料展を開催した。妻有の四季を背景とした日常の暮らしの一こまを着物資料や民具で再現した。期間中の入場者578名。

#### 企画展

「大地の息吹き―十日町の火焰型土器―」

期間：7月20日(日)～9月7日(日)

会場：博物館 考古展示室

大地の芸術祭に協賛し、博物館開館25周年のイベントとして市内の各遺跡から出土した火焰型土器・王冠型土器等を一挙公開。合わせて長野県茅野

市から借用した国宝の土偶・縄文のビーナス（レプリカ）なども展示紹介した。期間中の入場者4,390名。



企画展展示説明会の様子

### 博物館講座

今回のテーマは「時の記憶を手がかりに…資料から歴史を読み解く」。スライド等を用いながら、各講師から最新の情報と知識を分かりやすく解説していただいた。歴史研究の基となる資料について受講者に理解を深めてもらうことができたと思う。

《タイトルと講師および受講者数》

① 7/26(土) 13:30～15:30 受講者数 55名

「仏像が語りかけるものーその心とかたちー」

講師：川村知行氏（上越教育大学教授）

② 8/2(土) 13:30～15:30 受講者数：60名

「古文書から見えてくること」

講師：本井晴信氏（新潟県立文書館専門文書研究員）

③ 8/9(土) 13:30～15:30 受講者数：45名

「その後の大井田氏を追って」

講師：佐野良吉氏（新潟県民藝協会会長）

④ 8/23(土) 13:30～15:30 受講者数：39名

「石佛・石塔の分布は語るー地域の信仰と歴史ー」

講師：渡辺三四一氏（柏崎市立博物館学芸員）



講座風景 8/9

### 古文書入門講座（新規）

期間：5月17日～3月27日 計21回

（5月～12月：毎月第1・3土曜日、1月～3月：第2・4土曜日）

時間：9:30～11:30

会場：情報館 第1集会室ほか

講師：丸山克巳・佐藤英一氏（博物館友の会古文書研究グループ）

地元の資料を教材に使用して、基礎的な古文書の読解を学ぶ講座を今年度新たに開講した。募集人数は当初15名であったが、予想を大幅に超える38名から申し込みがあったため、急ぎよ会場を博物館から情報館へ変更し、すべての申込者を受け入れることにした。来年度は、習熟度によりコースを入門と中級の2つに分けて行う予定である。



古文書入門講座の様子

### その他

市民に地域の文化財に関心を持っていただくために、博物館では以下のような事業を展開している。

(1) 子ども博物館（博物館友の会共催事業）

小学4～6年生対象

① 川の中をのぞいてみよう！信濃川で水遊び！

7/28(月) 8:30～16:00 参加者数 25名

② 石器をつくろう！（※無料公開日企画）

8/3(日) 13:30～15:00 参加者数 6名

③ シメナワとハッチンチョウをつくろう！

12/6(土) 13:00～16:30 参加者数 16名

④ どんぐりクッキー&どんぐりコーヒーをつくろう！

2/7(土) 9:30～16:00 参加者数 14名

(2) 博物館無料公開日

8/3(日) 9:00～17:00 入場者数 324名

① 石器をつくろう！② 昔の遊びをしよう！③ 展示説明会④ 煎茶道朝茶会（郷土植物園）

（林 真子）

## 2. 文化財資料の保存・活用

### 第4回笹山じょうもん市

平成15年6月1日に第4回笹山じょうもん市が開催された。文化財課では第1回からこのイベントに協力している。今回も「笹山土器コーナー」において、国宝指定外の復元土器、石器・土製品を展示し、参加者に遺跡から出土した遺物に触れる機会を提供した。

### IT活用実証支援事業への協力

この事業は、新潟県IT・ITS推進協議会（県総合政策部情報政策課内）が、複数の協議会会員等（非会員含む）の共同による情報化に関する事業を支援するというものである。この事業に対し、(株)第一印刷所が提案した「ミュージアム収蔵作品の高解像度・高セキュリティによる配信事業」が採択され、共同企画者のひとつとして十日町市博物館（文化財課）も協力している。

事業概要は、博物館収蔵資料の写真を高解像度・高セキュリティでデジタルデータ化し、インターネットホームページへ配信するというものである。文化財課では、国宝などの考古資料、重文を含む越後縮および積雪期用具関連資料の写真とデータを提供した。なお、この成果は、期間限定であるが博物館ホームページをととして公開する予定である。

### 国宝修理保存事業

文化財課では、国宝・笹山遺跡出土深鉢形土器群を国民共有の財産として保存・活用するため、平成14年度より国・県から補助金の交付を受けて、国宝の修理保存事業を実施している。平成17年度までに、指定品57点のうち残存率がおおむね50%以上で、今後貸出が予想される火焰型・王冠型土器11点の解体修理を行う予定である。昨年度は指定番号1・6の火焰型土器2点が修理され、その概要については前号で報告している。

今年度は、指定番号4・8（火焰型）、指定番号15（王冠型）の計3点の修理を行った。また、合わせてこれらの土器の収納箱（桐材）も製作している。事業費は4,003,000円、作業委託期間は平成15年7月1日～12月19日である。修理作業の工程および概要については、前号ですでに触れているため、ここでは修理の基本的な考えについてまとめる。

基本的に修理にあたっては、土器が製作・使用されていた際に生じたと推定される破損などはそのままとし、経年変化については修復することとした。従って、発掘調査時に付けられたガジリ、整理作業中および復元後に付けられたキズ、接合痕、その後の取り扱いに伴う亀裂については、樹脂により補修・補強した。ただし、彩色の際には残存部分と色調を変えることで補修部分がわかるようにしている。

残存していない部分の文様復元については、基本的に修理前の状況に合わせて文様を復元している。しかし、改めて解体・接合作業を行った結果、修理前と異なる文様が入ると判断された場合は、文様を修正した。また、隆帯・突起が剥落している部分について、残存部分の文様パターンから判断して復元可能な場合は文様を復元し、そうでない場合は無理な復元をせず、剥落したままとしている。なお、土器の法量および器形は修理前と同じである。

最後になったが、昨年度に引き続きご指導いただいた文化庁の土肥 孝・原田昌幸調査官にお礼申し上げる。

### 国宝の実物展示について

平成11年6月の国宝指定以降、深鉢形土器57点の実物すべてを博物館考古展示室の国宝特設コーナーにおいて通年で展示していたが、資料保存の観点から平成13年度以降、国宝を代表する指定番号1・6（火焰型）・15（王冠型）の3点の土器については年間の展示日数を制限し、特設コーナーの照明をおとすなどの対策をとっている。

しかし、この実物展示期間の設定についてはこれまで明確な年間計画がなく、博物館の特別展に合わせるなどの対応であったため、今年度より以下のような方針とすることとした。

指定品57点すべての展示日数を制限することは、収蔵スペースおよび保管方法などの問題から不可能である。従って、解体修理が行われ収納箱が製作される火焰型・王冠型土器11点（No.1・2・4・6～8・10・14・15～17）については、指定番号1を含むAグループと指定番号6を含むBグループに分け、この2グループを3ヶ月サイクルで交互に展示する。それぞれの展示期間は、Aが2月中旬～5月中旬、8～10月、Bは5月中旬～7月、11～2月中旬とする。これにより、上記の11点は、実物の展示日数が年間半年に制限されることになる。（菅沼 亘）



解体された指定番号 4



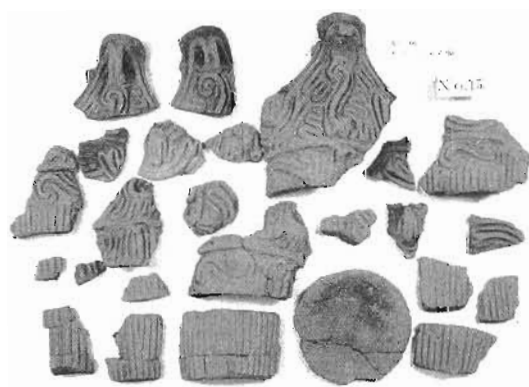
修理後の指定番号 4



解体された指定番号 8



修理後の指定番号 8



解体された指定番号 15



作業打合せ (検収)



修理後の指定番号 15

### 3. 文化財資料の貸出

今年度の文化財（博物館）資料の貸出件数（平成16年1月31日現在）は、86件である。その内訳は、実物資料（レプリカ含む）29件、写真資料（転載含む）57件となっている。

#### 実物資料

特別展などへの貸出は、表1のとおり9件で、その内の7件は考古資料（レプリカ含む）、残りの2件はアンギン資料である。この他、小学校の授業、地区公民館および地場産業振興センターの各種事業に昔の教科書、コネバチ、コエカゴ、ツム、明石ちぢみ、高機などを貸し出している。

国宝資料は、実物2件、レプリカ4件の貸出を行った。実物資料は、郡山市立美術館での原始美術の華『縄文土器の造形』展に火焰型土器（No.9）1点、深鉢形土器（No.28・46）2点の計3点、安城市歴史博物館での企画展『縄文・弥生の遺産』に火焰型土器（No.3・5）2点、土製品・石器・石製品7点の計9点を貸出している。一方、レプリカは、『岡本太郎と縄文』展（松坂屋美術館・浦添市美術館）、『写真家・岡本太郎の眼ー東北と沖縄ー』展（せんだい

メディアテーク）、企画展『縄文の森ー岡本太郎と歩く』（辰野美術館）と岡本太郎関連の特別展への貸出が続いた。

重文資料は、さいたま市立博物館での特別展『あむ』にアンギンソデナシ、オビ、マエカケ、フクロ、ゼニブクロ、編み工具など計6点を貸出している。

#### 写真資料

取材・撮影や転載を含めた写真資料の貸出件数は57件であり、表2に主要なものを示した。資料内容の内訳は、国宝（火焰型土器）25、考古（展示ジオラマ含む）12、雪（積雪期用具など）1、きもの（越後縮・明石ちぢみなど）3、信濃川1、アンギン5、その他（昔の写真など）10件であり、例年どおり国宝など考古資料関連が半数以上を占めている。

使用目的は、教育（教科書含む）11、単行本（歴史・民俗・越後縮関連）13、雑誌（歴史・観光など）8、パンフレット（広報・普及・会誌など）7、放送（テレビ番組）3、特別展パネル3、その他（ホームページ・イベント・カレンダー・年賀はがきなど）12件である。

（菅沼 亘）

| 貸出先                | 特別展名                                                        | 貸出資料                                                   | 貸出期間            | 備考                                |
|--------------------|-------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|-----------------|-----------------------------------|
| 株式会社<br>NHKプロモーション | 『岡本太郎と縄文』展<br>会期：4/2～13<br>会場：松坂屋美術館（名古屋）                   | 国宝・火焰型土器（No.1）レプリカ、野首・大井久保遺跡火焰型土器 計3点                  | 3/28～<br>4/17   | 観覧料：800円（一般）<br>図録：『岡本太郎と縄文』      |
| 新潟県立歴史博物館          | 常設展示「縄文文化を巡る新潟県の歴史」                                         | 笹山・幅上遺跡深鉢形土器 計2点                                       | 4/17～<br>6/30   |                                   |
| せんだいメディアテーク        | 『写真家・岡本太郎の眼ー東北と沖縄ー』展<br>会期：5/31～6/22                        | 国宝・火焰型（No.1・2・6）王冠型（No.15・16）土器レプリカ 計5点                | 5/21～<br>6/30   | 観覧料：500円（一般）<br>図録：『写真家・岡本太郎の眼』   |
| 琉球放送 株式会社          | 『岡本太郎と縄文』展<br>会期：8/2～31<br>会場：浦添市美術館                        | 国宝・火焰型土器（No.1）レプリカ、野首遺跡火焰型・王冠土器 計3点                    | 7/22～<br>9/10   | 観覧料：900円（一般）<br>図録：『岡本太郎と縄文』      |
| 財団法人<br>かすがい市民文化財団 | 『蘇れ編布（アンギン）ー<br>縄文からのメッセージ』展<br>会期：9/23～28<br>会場：文化フォーラム春日井 | アンギンソデナシ、マエカケ、フクロ、ゼニブクロ、編み工具 計6点                       | 9/12～<br>10/5   | 観覧料：300円（一般）                      |
| さいたま市立博物館          | 第27回特別展『あむ』<br>会期：10/11～11/24                               | 重文・アンギンソデナシ、オビ、マエカケ、フクロ、タスほか 計13点                      | 9/24～<br>12/10  | 観覧料：無料<br>図録：『あむ』                 |
| 辰野美術館              | 企画展『縄文の森ー岡本太郎と歩く』<br>会期：10/25～11/24                         | 国宝・火焰型土器（No.1・2・14）レプリカ 計3点                            | 10/15～<br>11/30 | 観覧料：600円（一般）<br>図録：『縄文の森ー岡本太郎と歩く』 |
| 郡山市立美術館            | 原始美術の華『縄文土器の造形』展<br>会期：1/17～3/14                            | 国宝・火焰型土器（No.9）・深鉢形土器（No.28・46）、野首遺跡火焰型土器、幅上遺跡深鉢形土器 計5点 | 1/7～<br>3/18    | 観覧料：800円（一般）<br>図録：『縄文土器の造形』      |
| 安城市歴史博物館           | 企画展『縄文・弥生の遺産』<br>会期：2/14～3/28                               | 国宝・火焰型土器（No.3・5）・土製品・石器・石製品、笹山遺跡深鉢形土器（指定外） 計12点        | 2/3～<br>3/31    | 観覧料：300円（一般）<br>図録：『縄文・弥生の遺産』     |

表1 実物資料の貸出一覧（主要なもの、2003.4～2004.3）



| 貸 出 先               | 出 版 物 な ど                                                       | 貸 出 資 料                            | 備 考     |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------|---------|
| 榛東村耳飾り館             | 企画展「縄文人に会いたいな」                                                  | アンギンを編むほか(ポジ・プリント)                 | 展示パネル   |
| 新潟県立歴史博物館           | 秋季企画展「捕る・愛でる・拝む一人と動物展ー」                                         | ネコググラに入った家猫(プリント)                  | 展示図録    |
|                     | 冬季企画展「博物館のウラおもてーレプリカの真実ー」                                       | 野首遺跡配石遺構型取り作業(プリント)                | 展示パネル   |
| 文化庁                 | 『An Overview of the Protection of Cultural Properties in Japan』 | 国宝・火焰型土器 (ポジ)                      | パンフレット  |
| 一宮市博物館              | 講座資料                                                            | ソデナシほか (プリント)                      |         |
| 笹神村教育委員会            | 『笹神村史』通史編                                                       | 縄文人の衣服とアクセサリー (イラスト)               |         |
|                     |                                                                 | 2万年前の日本列島(イラスト)                    |         |
|                     |                                                                 | 馬場上遺跡第2次調査区全景(プリント)                |         |
| 東京都教育委員会            | 『東京の遺跡散歩』                                                       | 竪穴のすまい (ポジ)                        | パンフレット  |
| 大湯ストーンサークル館         | 展示図録                                                            | アンギン編み工具 (転載)                      |         |
| 十日町地区年金受給者協会        | 『こうねんの友』                                                        | 神宮寺山門全景(プリント)                      | パンフレット  |
| 新潟県身障者団体連合会         | 『県身連だより』第70号                                                    | 鉢の石仏 (プリント)                        | パンフレット  |
| 中条地区公民館             | 『中条再発見』                                                         | イザリ機 (プリント)                        |         |
| 十日町小学校              | 視聴覚研究大会資料                                                       | 国宝・火焰型土器(プリント)                     |         |
| 川治小学校               | 十日町・中魚沼郡 PTA 研究集会資料                                             | 馬場上ムラのくらし(プリント)                    |         |
| 建設課                 | きもの広場トイレ 案内パネル                                                  | 国宝・火焰型土器 (ポジ)                      |         |
| 企画人事課               | 大地の芸術祭記録集                                                       | 国宝・火焰型土器(プリント)                     |         |
| 商工観光課               | 年賀状                                                             | 国宝・火焰型土器 (ポジ)                      | 雑誌      |
|                     | 『おでかけ情報 新潟』                                                     |                                    |         |
| 克雪利雪対策室             | 『雪冰冷熱実証試験調査報告書』                                                 | 雪室など (プリント)                        |         |
| クロス 10              | 物産ホール展示                                                         | 昔の遊びほか (プリント)                      | イベント展示  |
|                     | グランドホール展示                                                       | 昔の写真 (パネル)                         |         |
| (株)日本航空文化事業センター     | A R T カレンダー (2005年版)                                            | 国宝・火焰型土器 (撮影)                      |         |
| (株)NHK エデュケーショナル    | 「教育の社会文化史 第2回 人間形成と教育」                                          | カラムシ引き、芋糞ほか(プリント)                  | テレビ番組   |
| (株)アルバ              | 『デジタルポプラディア』                                                    | 貫頭衣 (ポジ)                           | デジタルデータ |
| 編集室 みんな             | 『新潟発』No.10夏号                                                    | 国宝・火焰型土器(プリント)                     | 雑誌      |
| 朝日新聞                | 『A E R A』                                                       | 国宝・火焰型土器 (撮影)                      | 雑誌      |
| (有)新創社              | 『L A N 版 歴史資料集』                                                 | アンギンを編むほか(ポジ)                      | デジタルデータ |
| 東京書籍(株)             | 『日本史B』                                                          | 国宝・火焰型土器 (ポジ)                      | 教科書     |
|                     | 中学校社会科教科書『新しい社会 歴史』                                             |                                    |         |
| (株)悠工房              | 『小学社会6上』(教育出版発行)                                                | 朴ノ木坂遺跡壺 (転載)                       | 教科書     |
|                     | 『攻略 実技ワーク 中1』                                                   | 国宝・火焰型土器 (転載)                      |         |
| (株)浩気社              | 『週刊 鉄道の旅』第42号(講談社)                                              | 国宝・火焰型土器 (ポジ)                      |         |
| 白鳥舎                 | 『縄文の素顔』(勅使河原彰著)                                                 | 国宝・火焰型土器 (ポジ)                      |         |
| 花林社                 | 別冊太陽『日本の自然布』(平凡社)                                               | 加賀屋資料・重文奉納幡(撮影)<br>博物館全景・展示室(プリント) |         |
| (株)新潮社              | 『芸術新潮』10月号                                                      | 国宝・火焰型土器 (撮影)                      |         |
| (株)タミワオフィス          | 『週刊 日本の街道』71号・津軽街道(講談社)                                         | 国宝・火焰型土器 (転載)                      |         |
|                     | 『週刊 日本の街道』79号・三国街道(講談社)                                         |                                    |         |
| (株)コーベット・フォトエージェンシー | 『コンパスノート日本史』                                                    | 国宝・火焰型土器 (ポジ)                      | 教科書     |
| (株)岩崎書店             | 『日本人の謎』全5巻・第3巻『日本人の食事とくらし』                                      | 竪穴のすまい・木の実の収穫(ポジ)                  |         |
| (株)学習研究社            | 『人間の美術』                                                         | 国宝・火焰型土器 (転載)                      |         |
|                     | 『日本人の暮らし大事典』                                                    |                                    |         |
| (株)文溪堂              | 『社会科資料集6年 全国版』                                                  | 竪穴のすまい (転載)                        | 教科書     |
| (有)アート・エフ           | 『中3受験』                                                          | 朴ノ木遺跡土器 (転載)                       | 教科書     |
| 清流出版(株)             | 『文明の謎を解く』                                                       | 国宝・火焰型土器(プリント)                     |         |
| (株)法研               | 東京自動車部品工業健保組合機関誌 1月号                                            | 国宝・火焰型土器 (ポジ)                      | パンフレット  |
| (株)岩崎書店             | 『日本人の謎』全5巻中の第5巻『日本人の住まい』                                        | 竪穴のすまい (転載)                        |         |
| NHK エンタープライズ        | 『迷宮美術館』                                                         | 国宝・火焰型土器 (撮影)                      | テレビ番組   |
| (株)アートフロントギャラリー     | 大地の芸術祭記録集                                                       | アンギン編み工具・雪まくりなど(プリント)              |         |
| (株)第一印刷所            | I T 活用実証支援事業                                                    | 越後縮・民具・土器ほか(ポジ)                    | デジタルデータ |
| 大光銀行                | ほのぼのキャンペーン                                                      | 民俗写真 (パネル)                         | イベント展示  |
| 大熊 孝(新潟大学工学部)       | 『川と人をつなぐ技術の思想』                                                  | 国宝・夏の渡し (転載)                       |         |
| 小林幹子(水原中学校)         | 『写真で語る建築百科辞典』                                                   | 雪室 (プリント)                          |         |

表2 写真資料の貸出一覧 (主要なもの、2003.4~2004.1)

# 資 料

## 十日町市の指定文化財一覧

平成16年 3 月31日現在

(国宝)

| 番号 | 種 別  | 名 称                                 | 員 数 | 指定年月日      | 所 在 地 | 所有者・管理者       | 備 考  |
|----|------|-------------------------------------|-----|------------|-------|---------------|------|
| 1  | 考古資料 | 笹山遺跡出土深鉢形土器57点<br>(附 土器・土製品類ほか871点) |     | 平成11. 6. 7 | 西本町 1 | 十日町市<br>(博物館) | 縄文時代 |

(重要文化財)

| 番号 | 種 別  | 名 称            | 員 数   | 指定年月日      | 所 在 地 | 所有者・管理者    | 備 考       |
|----|------|----------------|-------|------------|-------|------------|-----------|
| 2  | 有形民俗 | 越後縮の紡織用具及び関連資料 | 2098点 | 昭和61. 3.31 | 西本町 1 | 十日町市 (博物館) | 江戸～明治時代   |
| 3  | 有形民俗 | 十日町の積雪期用具      | 3868点 | 平成 3. 4.19 | 西本町 1 | 十日町市 (博物館) | 江戸～昭和30年代 |

(新潟県指定文化財)

| 番号 | 種 別   | 名 称                  | 員 数  | 指定年月日                    | 所 在 地      | 所有者・管理者            | 備 考      |
|----|-------|----------------------|------|--------------------------|------------|--------------------|----------|
| 4  | 建造物   | 神宮寺観音堂・山門            | 2 棟  | 平成 3. 3.29               | 四日町        | 神宮寺                | 江戸期      |
| 5  | 絵 画   | 山水図鉤雲泉筆六曲屏           | 1 双  | 昭和29. 2.10               | 山本         | 関口芳央               | 江戸時代末期   |
| 6  | 彫 刻   | 木造十一面千手観音立像          | 1 軀  | 昭和46. 4.13               | 四日町        | 神宮寺                | 平安時代後期   |
| 7  | 彫 刻   | 木造四天王立像 (伝広目天・伝毘沙門天) | 2 軀  | 昭和49. 3.30               | 四日町        | 神宮寺                | 平安時代末期   |
| 8  | 有形民俗  | 越後縮幡                 | 74 旒 | 昭和49. 3.30<br>追加50. 3.29 | 吉田山<br>谷ほか | 吉田社ほか 6<br>社 (博物館) | 江戸～明治時代  |
| 9  | 史 跡   | 大井田城跡                |      | 昭和53. 3.31               | 中条         | 十日町市               | 南北朝期     |
| 10 | 天然記念物 | 小貫諏訪社の大スギ            | 1 本  | 昭和53. 3.31               | 小貫         | 諏訪神社               | 幹囲8. 33m |

(新潟県選定保存技術)

| 番号 | 種 別    | 名 称     | 員 数 | 指定年月日      | 所 在 地 | 所有者・管理者 | 備 考         |
|----|--------|---------|-----|------------|-------|---------|-------------|
| 一  | 選定保存技術 | 十日町茅葺職人 | 3 人 | 平成12. 3.31 | —     | —       | 神宮寺観音堂・山門対象 |

(十日町市指定文化財)

| 番号 | 種 別  | 名 称               | 員 数   | 指定年月日                    | 所 在 地 | 所有者・管理者              | 備 考                       |
|----|------|-------------------|-------|--------------------------|-------|----------------------|---------------------------|
| 11 | 建造物  | 智泉寺山門             | 1 棟   | 平成 6. 3.23               | 昭和町 3 | 智泉寺                  | 江戸時代中期                    |
| 12 | 建造物  | 観泉院山門             | 1 棟   | 平成 7. 3.24               | 土市    | 観泉院                  | 江戸時代中期                    |
| 13 | 絵 画  | 一遍上人絵詞伝           | 8 巻   | 昭和54. 9.12               | 川原町   | 小林賢有                 | 江戸時代中期                    |
| 14 | 彫 刻  | 木造阿弥陀如来立像         | 1 軀   | 平成 8. 3.21               | 川原町   | 来迎寺                  | 鎌倉時代後期                    |
| 15 | 彫 刻  | 木造聖観音立像           | 1 軀   | 平成13. 3.22               | 新宮    | 竜王山講中                | 戦国期末                      |
| 16 | 工芸品  | 越後縮裂見本帳           | 2 冊   | 昭和47.11.28               | 本町 3  | 蕪木孫右                 | 江戸期                       |
| 17 | 工芸品  | 十日町織物歴代標本帳        | 47 冊  | 昭和62. 2.23<br>追加 1. 2.16 | 西本町 1 | 十日町織物工業<br>協同組合(博物館) | 明治25年～昭和13年<br>明治42年～昭和8年 |
| 18 | 工芸品  | 縮問屋加賀屋の御用縮及び関連資料  | 110 点 | 平成 2. 6. 8               | 西本町 1 | 蕪木元昭(博物館)            | 江戸時代後期                    |
| 19 | 工芸品  | 宮本茂十郎手織の透綾 (絹縮)裂地 | 3 点   | 平成13. 3.22               | 西本町 1 | 十日町織物工業協同組合(博物館)     | 幕末～明治初                    |
| 20 | 古文書  | 太子堂村検地帳           | 4 点   | 平成12. 3.21               | 西本町 1 | 若井基八郎(博物館)           | 中世～江戸時代初期                 |
| 21 | 考古資料 | 馬場上遺跡出土品          | 一括    | 平成 2. 2.22               | 西本町 1 | 十日町市 (博物館)           | 古墳時代中期～平安時代               |
| 22 | 考古資料 | 笹山遺跡出土品(国指定分を除く)  | 一括    | 平成 2. 2.22               | 西本町 1 | 十日町市 (博物館)           | 縄文時代、中世                   |
| 23 | 考古資料 | 伊達八幡館跡出土品         | 一括    | 平成11. 3.16               | 西本町 1 | 十日町市 (博物館)           | 中世                        |
| 24 | 考古資料 | 幅上遺跡出土品           | 一括    | 平成12. 3.21               | 西本町 1 | 十日町市 (博物館)           | 縄文時代                      |
| 25 | 歴史資料 | 旗指物               | 1 旗   | 昭和55. 4.11               | 六箇山谷  | 富井清孝                 | 江戸時代初期                    |

| 番号 | 種別    | 名 称                          | 員 数         | 指定年月日                    | 所 在 地 | 所有者・管理者     | 備 考            |
|----|-------|------------------------------|-------------|--------------------------|-------|-------------|----------------|
| 26 | 歴史資料  | 明和元年の俳句献額                    | 1 面         | 平成14. 3.21               | 四日町   | 神宮寺         | 江戸時代後期         |
| 27 | 歴史資料  | 安永七年の俳句献額                    | 1 面         | 平成14. 3.21               | 諏訪町   | 十日町諏訪神社     | 江戸時代後期         |
| 28 | 工芸技術  | 越後アングイン製作技術                  |             | 平成11. 3.16               | 西本町1  | 越後アングイン伝承会  |                |
| 29 | 無形民俗  | 赤倉神楽                         |             | 昭和51.11. 8               | 赤倉    | 赤倉神楽保存会     |                |
| 30 | 無形民俗  | 大の坂                          |             | 昭和59. 1.26               | 中条旭町  | 中条大ノ坂保存会    |                |
| 31 | 無形民俗  | 新保広大寺節                       |             | 昭和59. 1.26               | 下条本町  | 新保広大寺節保存会   |                |
| 32 | 無形民俗  | 新水のドウラクジン(道楽神)とハネツケエーシ(羽根返し) |             | 平成 7. 3.24               | 新水    | 新水地区        |                |
| 33 | 無形民俗  | 水沢の石場かち                      |             | 平成15. 3.24               | 土市    | 水沢地区伝統芸能保存会 |                |
| 34 | 有形民俗  | 越後アングイン及び関連資料                | 一括          | 平成11. 3.16               | 西本町1  | 十日町市(博物館)   | 江戸～明治時代        |
| 35 | 史 跡   | 四日町神宮寺境内地及び山林                |             | 昭和47.11.28<br>追加49. 6.11 | 四日町   | 竹内道雄        | 江戸期            |
| 36 | 史 跡   | 大黒沢正平在銘梵字碑                   | 1 基         | 昭和51. 1.10               | 大黒沢   | 村山キノエ       | 南北朝期           |
| 37 | 史 跡   | 鉢の石仏                         |             | 昭和53. 1.28               | 鉢     | 鉢石仏保存会      | 江戸期民間信仰跡       |
| 38 | 史 跡   | 笹山遺跡                         |             | 平成 4.12. 3<br>追加15.11.27 | 中条上町  | 岩田栄十郎ほか     | 縄文時代、中世        |
| 39 | 史 跡   | 羽川(秋葉山)城跡                    |             | 平成10. 3.25               | 六箇麻畑  | 麻畑・羽川城跡保存会  | 戦国期            |
| 40 | 名 勝   | 積翠荘                          |             | 昭和55. 4.11               | 吉田山谷  | 酒井うめ子       | 江戸期            |
| 41 | 天然記念物 | 姿箭放神社大ケヤキ                    | 1 本         | 昭和63. 7.20               | 姿     | 箭放神社        | 樹齢約550年幹囲5.14m |
| 42 | 天然記念物 | 高竈神社社叢                       |             | 平成 1.10. 3               | 背戸    | 高竈神社        |                |
| 43 | 天然記念物 | 安養寺松尾神社の大スギ                  | 1 本         | 平成 4. 3.21               | 安養寺   | 安養寺地区       | 樹齢約500年幹囲7m    |
| 44 | 天然記念物 | 安養寺円通庵の三本スギ                  | 3 本         | 平成 4. 3.21               | 安養寺   | 安養寺地区       | 樹齢約500年        |
| 45 | 天然記念物 | 枯木又龍王池とカスミザクラ及び三本スギ          | 1ヶ所<br>1本3本 | 平成 6. 3.23               | 枯木又   | 枯木又         | 枯木又地区          |
| 46 | 天然記念物 | 入山のカスミザクラ                    | 1 本         | 平成 9. 3.24               | 入山    | 入山          | 山本丑松           |

■指定文化財管理委託料 (単位：円)

|          |                     |           |
|----------|---------------------|-----------|
| 《県指定文化財》 |                     |           |
| 史跡       | 大井田城跡               | 61,200    |
| 天然記念物    | 小貫諏訪社の大スギ           | 18,000    |
| 《市指定文化財》 |                     |           |
| 建造物      | 智泉寺山門               | 18,000    |
| 建造物      | 観泉院山門               | 18,000    |
| 史跡       | 四日町神宮寺境内地及び山林       | 61,200    |
| 史跡       | 大黒沢正平在銘梵字碑          | 18,000    |
| 史跡       | 鉢の石仏                | 61,200    |
| 史跡       | 羽川(秋葉山)城跡           | 61,200    |
| 名勝       | 積翠荘                 | 36,000    |
| 天然記念物    | 姿箭放神社の大ケヤキ          | 18,000    |
| 天然記念物    | 高竈神社社叢              | 61,200    |
| 天然記念物    | 安養寺松尾神社の大スギ         | 18,000    |
| 天然記念物    | 安養寺円通庵の三本スギ         | 18,000    |
| 天然記念物    | 枯木又龍王池とカスミザクラ及び三本スギ | 36,000    |
| 天然記念物    | 入山のカスミザクラ           | 18,000    |
| (合計)     |                     | (522,000) |

■指定文化財管理補助金 (単位：円)

|       |                              |           |
|-------|------------------------------|-----------|
| 無形文化財 | 赤倉神楽                         | 30,000    |
| 無形文化財 | 大の坂                          | 30,000    |
| 無形文化財 | 新保広大寺節                       | 30,000    |
| 無形文化財 | 新水のドウラクジン(道楽神)とハネツケエーシ(羽根返し) | 30,000    |
| 無形文化財 | 水沢の石場かち                      | 30,000    |
| (合計)  |                              | (150,000) |

## 編集ノート

文化財課年報8をお届けします。

平成2年4月に文化財課が発足してから丸14年がたちました。当時、圃場整備事業などの開発行為に伴う発掘に追われ、埋蔵文化財課などと自嘲していた頃を思い出します。しかし、この相次ぐ発掘と埋蔵文化財の増加への対応が文化財課設置のキッカケでもありました。以来14年、兼務の博物館活動との両輪で埋蔵文化財への対応のみならず各種文化財の指定、保護・管理と資料の活用に多くの成果を挙げてきたと自負しています。

所有資料の重文・国宝指定、貴重な文化遺産の市文化財指定作業、博物館活動と連動した様々な活用事業などはその代表事例です。そして、課と文化財保護活動の年間記録である年報の刊行もこうした成果に加える事ができるかと思っています。

今、課では国宝火焰型土器の保存修理事業、発掘調査報告書の継続的刊行を手がけていますが、15年度からは国宝出土地である笹山遺跡の史跡整備と活用を目指した国宝館・火焰の都事業の担当課にもなりました。今後とも文化財保護と密接に関わる様々な問題に、課を挙げて真剣に取り組んで行かなければならないと考えています。

文化遺産に目を向け、町づくりに取り組む自治体が増えています。文化財という優れた先人の遺産を現代の地域に活かす試みは、後世に伝えていく努力とともに大切な事です。それは故郷への誇りと愛着に繋がります。それこそが地域を蘇らせ、人としての存在認識や感性、知性教養、文化価値の理解などの視点や見識を磨く基礎になるのだと思います。

そのためにも、我々文化財保護に携わる職員は、日々の学習と研鑽に努め、保存・伝承・活用などの活動に務める所存です。

ともあれ、ささやかな記録ではありますが、是非ご一読いただき、ご指導やご鞭撻をいただきたくお願い申し上げます。

また、文化財課の事業や活動においては、関係機関・団体をはじめ指定文化財の管理者の皆さん、発掘調査作業員の皆さん、関係業者の皆さん等大勢の方々のご支援・ご協力をいただいています。ここに紙面を借りて、厚くお礼申し上げます。

(竹内)

### ■文化財課・博物館職員（平成15年度）

|       |            |                |
|-------|------------|----------------|
| 文化財課長 | 上村 松雄（兼）   |                |
| 課長補佐  | 竹内 俊道      | 文化財主事（係長）      |
| 主査    | 石原 正敏      | 文化財主事          |
| 主任    | 菅沼 亘       | 文化財主事          |
| 主事    | 岩田恵美子（兼）   | 〈10/18～3/31〉育休 |
| 同     | 林 真子（兼）    |                |
| 同     | 富井 寛人（兼）   |                |
| 嘱託    | 阿部 恭平      |                |
| 同     | 中澤 幸男（博物館） |                |
| 臨時職員  | 阿部 範子（博物館） | 〈4/1～10/17〉育代  |
| 同     | 山口真佐子（博物館） |                |
| 同（隔日） | 板橋 恭子（博物館） | 〈4/16～12/26〉   |
| 同（隔日） | 田村 明美（博物館） | 〈4/16～9/30〉    |
| 同（隔日） | 村山千穂子（博物館） | 〈10/1～12/26〉   |
| 補助職員  | 山田 敏枝      |                |
| 同     | 上野 洋子      |                |

---

---

十日町市教育委員会 **文化財課年報 8**

発行日／平成16年(2004)3月31日

編集・発行／十日町市教育委員会  
文化財課

〒948-0072 新潟県十日町市西本町1丁目

十日町市博物館 内

十日町市教育委員会文化財課

TEL(0257)57-5531

FAX(0257)57-6998

---

---

印刷／(株)滝沢印刷